

実践事例

1 実践の概要

(1) 取り組みのねらい

- ・ いじめを生まない予防的教育活動

(2) 取り組みの内容

- ① 全校集会での校長講話
- ② 生徒指導協議会を中心とした組織的な取り組み（「あいづっこ」宣言の浸透）
- ③ 学級集団のアセスメント（Q-U尺度）を生かした学級集団の把握と対応
- ④ TTによる道徳の授業の実践

2 実践の成果

(1) 全校集会での校長講話

- 全校集会で校長が「いじめは犯罪である。」ことを具体的事例を通して話し、全校児童にいじめについて認識させることができた。

(2) 生徒指導協議会を中心とした組織的な取り組み（「あいづっこ」宣言の浸透）

- 各学年のいじめの実態把握や気になる情報等の共通理解を図り、校長・教頭・生徒指導主事を中心として組織的に対応したことは、予防につながった。
- 常に「あいづっこ」宣言を意識して生活させてきたことにより、いじめは「人間として絶対に許されない行い」であり、見て見ぬふりをするのもいじめと同じであること、勇気を持って話することは正しい行為であることを認識させることができた。

(3) 学級集団のアセスメント（Q-U尺度）を生かした学級集団の把握と対応

- 個々のいじめアンケートの他に、学級集団のアセスメント（Q-U尺度）を生かした学級集団の把握を行ったことにより、「侵害行為認知群」や「学級生活不満足群」の児童を把握することができ、いじめを生まない学級づくりや、全職員で意識して認め励ますような支援ができた。

(4) TTによる道徳の授業の実践

① 心に響く資料の選定について

松谷みよ子さんの絵本「わたしのいもうと」は、松谷さんに送られた「いもうと」のお姉さんからの手紙の実話をもとに作られた絵本である。「友達にいやなことをされたりしたりすることがある」「そういうことをだまってることもある」という5・6学年の子どもたちの実態をふまえ選定した。「いじめ」という重いテーマであったが、子どもたちは、とても真剣にこのテーマと向き合い、自分の考えを素直に表現し、教師や友達の考えを聞き、心の響き合いを深めることができた。「今は勇気がなくて助けられないかもしれないけれど、やめなと言いたい。」「助けられないと思っていたが、友達の考えを聞いてできるかもしれないと思った。」など、子どもたちが自らを振り返り、これからの自分の行動について考えることにつながった。授業後は、相

手に対しての言葉について気を付け合う姿や良くないと思うことにはきちんと正義感を持って注意する姿がみられるようになってきた。

② 指導体制の充実（担任2名、教頭によるT・T）について

本時は、第5学年担任（T2）、第6学年担任（T1）、教頭（T3）のT・Tによる授業である。事前に協力して指導案、教材等を作成し、役割分担（T1：全体進行、T2：板書しながら個々に支援、T3：朗読、講話）を明確にして授業に臨んだ。最後に教頭が悩むことの多い一人の人間として、これまでの子育てを通しての体験を話した。また、参観日に実施したため、保護者と一緒に学びを共有することができた。後日、学校通信やそれぞれの学級だよりで授業の様子を紹介し、家庭の話題の一つとしていただくよう呼びかけた。家庭や地域の人々と連携しながらいじめ予防に取り組むきっかけとなった。

3 実践に関する資料

<第2学期の学校通信の一部>

12月15日の参観日に、5・6年生合同の道徳の授業で「いじめ」をテーマとした授業を5・6年担任と教頭が行いました。松谷みよ子さんの絵本「わたしのいもうと」は、松谷さんに送られた「いもうと」のお姉さんからの手紙の実話をもとに作られた絵本です。「友達にいやなことをされたりしたりすることがある」「そういうことをだまっで見ていることもある」という子どもたちの実態をふまえ、「誰に対しても偏見を持つことなく公正公平に接しようとする心情を育てる」ことをねらって授業を行いました。子どもたちは、とても真剣にこのテーマと向き合い、自分の考えを素直に話したり書いたりしてくれました。最後に教頭から子育てを通して「一人一人がかけがえのない大切な存在であること、今は、勇気がなくて注意できない人もきっといつか勇気をもって行動できる人になってほしい」というメッセージをこめた話をしました。子どもたちが自分の心としっかり向き合ってくれたことに感動しました。

<5年生の感想から>

私はいじめのことなんか関係がないと思っていましたが、今日の話聞いて、そうではないと思いました。

今度からはいじめられている人を助けたいと思います。また、自分自身も人のいやがるようなことをしていじめにつながることをないようにしたいです。

<6年生の感想から>

「わたしのいもうと」という話や教頭先生の話聞き、とても心がいたくなりました。自分は「いじめを止められない。」と思いこみました。でも止められないのではなく、自分でできることをやれば、いじめられている人はとてもうれしいと感じるのではないかと思います。少しでも暗闇から救ってあげる。そして、教頭先生の話にあったように止められる自分になりたいと思いました。

「いじめ」問題につきましては、お子様一人一人の心のサインを見逃さず、学校全体で取り組むためいじめ根絶チームにより対応しています。お子さんのことで気になることがございましたら、どんな小さなことでも遠慮なさらずに担任や教頭などにご相談下さい。